

三國武將争霸

三國志ファイター

CHINESE HISTORIC FIGHTING GAME

Staged in the time of the Three Kingdoms, Starred in the Great War of the Triad are,
The Best Fighters, The Fiercest Battles,
The Most Dangerous Crisis in the History of China.



ユーザーズマニュアル

imagineer

三國志 覇王 三國志 ファイター

ユーザーズマニュアル

(C) 1995 IMAGINEER Co.Ltd

三國武将争覇 ユーザーズマニュアル

目 次

1. ゲームをはじめる前に	3
1-1.商品構成	3
1-2.動作環境	3
2. ゲームの準備	4
2-1.「三國武将争覇起動ディスク」の作成	4
2-2.ハードディスクインストールの方法	5
3. 三國武将争覇の遊びかた	6
3-1.メニューの説明	6
3-2.基本操作	7
3-3.必殺技の入力	7
4. 武将と必殺技の紹介	8

このゲームについて

このゲームは1993年に台湾のバンダエンターテイメント（熊貓軟体公司）より発売された「三國志武将争覇」をイマジニア株式会社が日本のNEC PC9801シリーズ向けに移植したものです。台湾のパソコンゲーム市場は近年ますます活況を呈しており、バンダエンターテイメントもそこで活躍するソフトハウスの一つです。イマジニアはこれまで欧米のタイトルを中心に移植を行なってきましたが、この「三國志武将争覇」はアジア圏からの初の移植ということで、これをきっかけにアジアのパソコンゲーム市場の活況を製品を通じて皆さんに御紹介することができれば幸いです。

イマジニア開発ディレクター 古郡 弘

日本語版 制作スタッフ

ディレクター : 古郡 弘
制作指揮 : 中川 淳（グレイト）、石黒 征明（MBA）
プログラミング : 川勝 誠治
ドライバー制作 : 川原 啓信
デザイン : 道園 重成

1. ゲームをはじめる前に

1-1.商品構成

PC9801シリーズ「三國武将争覇」製品パッケージには、以下の商品が同梱されています。

三國武将争覇ディスク1

三國武将争覇ディスク2

ユーザーズマニュアル

ユーザー登録はがき

※「三國武将争覇起動ディスク」は、「2. ゲームの準備」の手順にしたがって作成します。

1-2.動作環境

- ハードディスク専用です。ハードディスク空き容量が5MB以上が必要です。
- メインメモリ1.6MB以上が必要です。
- CPUは386SX以上で動作しますが、快適なゲームのためには486SX以上をお薦めします。
- PC-9801シリーズには256色表示可能なグラフィックボードが必要です。
- アナログRGB対応高解像度カラーディスプレイが必要です。
- 音源は「PC-9801-86」（PC-9821シリーズ≪Bシリーズ以外≫には標準装備）に対応しています。
- 純正ドライブ以外での動作保証はできかねます。

2. ゲームの準備

2-1. 「三國武将争覇起動ディスク」の作成

「三國武将争覇起動ディスク」を作るために、新しいブランクディスクを1枚用意してください。このディスクをシステムフォーマットする手順を説明します。

- 1) ハードディスクドライブからMS-DOSを起動します。
- 2) FORMATと入力し、リターンを押します。
- 3) フォーマットコマンドの画面が出たら、装置にフロッピーディスクを選択してリターンを押します。
- 4) ドライブに用意したブランクディスクを挿入し、システム転送をする設定にして「実行」にカーソルを移動し、リターンを押します。

終了のメッセージが出たら、フォーマットメニューを終了してください。このディスクをこれから「起動ディスク」と呼びます。

2-2. ハードディスクインストールの方法

- 1) 「三國武将争覇DISK 1」をディスクドライブの1に入れ、カレントドライブをディスクドライブに移動します。

A> B: (リターン)

B>

- 2) INSTALL と入力しリターンキーを押すと、三國武将争覇のインストールプログラムが起動します。

B> INSTALL (リターン)

- 3) 「インストールの準備はいいですか？」の表示で、起動ディスクの準備ができていれば「はい」を、できていなければ「いいえ」を選択します。

4) 転送元フロッピードライブを聞いてきます。「三國武将争覇DISK 1」が挿入されているディスクドライブが選択されていれば「はい」をクリックして下さい。ドライブの変更を行いたい場合は「いいえ」を選択し、希望のドライブを選択して下さい。

5) 転送先ドライブを聞いてきますので、正しいハードディスクのドライブが選択されていれば「はい」をクリックして下さい。ドライブの選択を変更したい場合は\$と同様に変更 できます。

6) 「グラフィックドライバはNEC製でよろしいですか？」と聞いてきますので、PC-9821シリーズをお持ちの方はそのまま「はい」を、PC-9801シリーズにグラフィック・アクセラレータボードを装着している方は「いいえ」をクリックしてください。

7) 6)で「いいえ」をクリックした方は、ご自分のグラフィック・アクセラレータボードのメーカーを選択して、「はい」をクリックしてください。

8) 「インストールを開始しますか？」と表示されたら「はい」を選択します。

9) まず起動ディスクを作成します。準備した「起動ディスク」をドライブに入れてマウスのボタンをクリックして下さい。

(ここでシステムフォーマット済みディスクの準備ができていなければ、インストールはできません。起動ディスクの準備は「起動ディスクの作成」をご覧ください。)

10) 続いて「三國武将争覇DISK 1」を挿入してください。あとは画面の指示にしたがって、「三國武将争覇DISK 2」との入れ替えを行ってください。

11) 終了後インストールは完了です。起動ディスクをディスクドライブに挿入してリセットして下さい。ゲームが起動します。

ゲームの終了方法はメインメニューの「卸甲還郷」(兜を脱いで故郷に帰る、の意味。)を選択して下さい。MS-DOSに戻ります。

3. 三國武將争覇の遊びかた

3-1.メニューの説明

1) 統一天下 どういつてんか

マップ攻略モードです。プレイヤーは蜀の五虎将を使って曹操と配下の武将や呂布が守る拠点を攻略しなければなりません。はじめに出てくる雑兵を倒し、マップの守将に一騎打ちを挑みます。一定時間のうちに守将を倒せないと、雑兵が何度も出てきます。

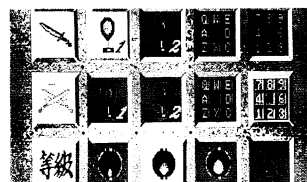


2) 武將争覇 ぶしょうそうは

勝ち抜き戦です。蜀の五虎将、曹操と配下の武将、呂布の誰でも選択できます。

3) 雙人対決 そうじんたいけつ

2人対戦モードです。キーボードのアルファベット側とテンキー側でそれぞれ操作します。



4) 配備設定 はいびせってい

環境設定モードです。キーボードのアルファベット側とテンキー側の割り振りを変更したり、ゲームの難易度を変更します。「結束」でメニューに戻ります。

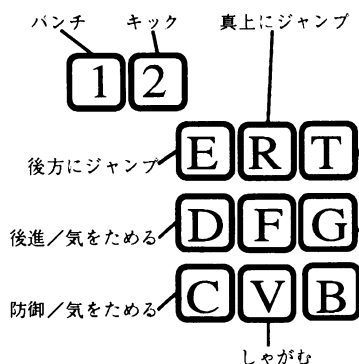
5) 卸甲還郷 しゃこうかんこう

ゲームを終了してMS-DOSにもどります。

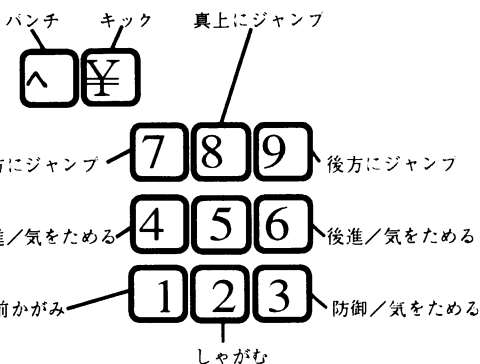
3-2. 基本操作

アルファベットキー側とテンキー側のキーアサインはそれぞれ以下の様に設定されています。機能の説明はアルファベットキー側が左から右に、テンキー側が右から左にキャラクターを操作している状態を想定しています。戦闘中にキャラクターの向きが入れ違くと、方向キーの機能も逆向きになります。これは技に関しても同様です。

<アルファベット側>



<テンキー側>



ESC

武将選択か戦闘中に押すと中断できる。
以下の中断メッセージがある。
臨陣脱逃 りんじんだっとう
戦場から逃げ出す意味。「是」でEXIT:
寧死不屈 ねいしふくつ / 倒戈投降 とうかとうこう
コンティニュー / 終了。

3-3. 必殺技の入力

必殺技は、武将と必殺技の紹介のところですべての技について入力方法と説明を記してあります。アルファベットキー側が左から右に攻撃する場合を想定してありますので、逆向きのときはキーアサインを参考に左右を入れ替えて入力してください。

<凡例>

D ⇒ **G** ⇒ **1**

D→G→1の順に入力

D ⇔ **G** ⇒ **1**

D、Gどちらか一方と1を入力 (⇔は投げ技の場合しばしば登場します)

4. 武将と必殺技の紹介



関羽

字名は雲長。三国志演義に記述されている彼の顔は大変ユニークで「蚕のようなまつげ、丹鳳のような目、赤ら顔に長い顎鬚」と描写されている。立派な体格であり美男子。更に忠義を重んじたので今でも全中国人民の尊敬の念を集めている。

関羽と張飛と劉備は義兄弟の杯を交わしており血のつながった兄弟よりも親しい。また曹操の捕虜となったこともあるが、曹操は関羽を裏切らせるために「戦闘の前に金を与え戦闘の後に銀を与え」また、美女と官位をも与え、捕虜とは思えない厚いもてなしをしたが、劉備への忠義は揺るぐことがなかった。そして隙を見て曹操のもとを逃げ出し劉備のもとに帰還したのである。曹操といえども手のうちようがなく、唯関羽を褒めて「もとの君主を忘れず、態度が明確である。関羽こそ本

物の豪傑である」と語るだけであった。

関羽は義を重んじただけでなく武勇に秀でており、一世を風靡し敵がその名を聞くだけで肝をぬかすほどであった。例えば曹操の捕虜になったとき、曹操のために袁紹の配下である顔良・文醜と戦い勝利した。また曹操のもとから劉備の処へ帰還する途中で五つの関所を突破し、守備をしている六人の将軍に勝った。更に一人で呉の魯肅と出会ったとき、魯肅は関羽の気に圧倒されて荊州を奪い取る計画を一次断念したのである。これらの物語は後々の人々が語り継いできたものである。諸葛亮孔明が荊州の守備を関羽に命令したとき「北の曹操を拒み東の孫権と和す」と関羽に説いた。しかし関羽は孔明の言うことを守らなかったのである。敵対している曹操軍の曹仁と孫権軍の呂蒙は取るに足らないもので、考慮することは全くない。関羽は曹仁を討伐するために荊州城を出ている隙を呂蒙に突かれ、関羽軍は奇襲され荊州と自らの命を失ったのである。



鉤投 とうとうつ

青龍偃月刀で敵を捉え後方に投げとばす。近くにいる敵を撃退する必殺技。





D⇒V⇒1

流星超月 りゅうせいちょうげつ

相手を牽制するための技。青龍偃月刀に気を集めてから全身の力を込めて、相手に斬りかかる必殺技でもある。青龍震尾と一緒に使えばさらにパワーアップする。気をフルに集めればスピードも早くなる。



V⇒G⇒2

回馬刀 かいばとう

防御するための技。敵が正面や空から攻めて来た場合、攻撃をうまくかわす事ができる。



D⇒G⇒1

青龍震尾 せいりゅうしんび

関羽の青龍偃月刀の必殺技。身を翻して空に跳び、空中から敵に斬りかかる。強い技だが空から降りてくるまでの間、隙が多く見られるので、うまく使う事が大切なポイントとなる。



V⇒1

泰山圧頂 たいざんあっちゃう

全身を武器にし、うまく敵の隙をつき、空から覆い被せば、敵に大きなダメージを与える事ができる。



D⇔G⇒1

穿心掌 せんしんしょう

究極の必殺技。フルに気を集めてから敵を捉え六回パンチを叩き込んだ後、後方に投げとばす。敵に対する殺傷力は大きい。



張飛

安喜県に督郵を鞭打ちて
虎牢関にあっては敵を震えおのかせ
敵顔を下して蜀の境を安んじ
呉を伐つこと未だ成さざるに身を滅ぼして

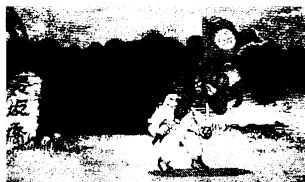
黄巾の乱に敵を全滅せしめ
長板橋にあっては河流を逆巻かせ
張を欺きて関中を平定す
無念の思いを秋の大地に残したり

上の詩は張飛の一生をそのまま表している。三国志演義の小説の中では張飛はただ勇猛なだけの將軍として描かれているが、史書の記述によると、「張飛は勇猛であるが、配下の兵士を棒で打つといった粗暴な面が関羽と異なる。」とされる。また、意外や彼には書道に秀でた一面があって、「八濤山碑」の様に、後生の書家志願者が模範とする筆跡を残しているのである。義兄の関羽は、次の一言で、張飛の武勇を最も明白に言い表している。「我が弟の張翼徳にとっては、百万の敵軍の直中から敵將の首級を挙げるなど、ただ単に袋の中のをひょいと取り出すが如くですよ。」この言葉を聞いた曹操は、それ以後「張飛」の名を警戒すべき者の第一として脳裏にたたき込むことになる。

曹操が劉備を追って長板橋にさしかかったとき、このとき劉備の軍勢は曹操の軍の十分の一にも満たない少人数であった。まさに危急存亡の時であったが、このときしんがりを務めた張飛はただ一騎で橋の上にあり、小さな川を間に挟んで曹操の大軍と向かい合っていたが、大声で名乗りあげたのである。「燕人張翼徳これにあり！さあ、この俺と戦おうと言う奴は誰だあ！」これを聞いて、曹操自身、わずかの間だが配下の武將たちの中に紛れて身を隠してしまっし、誰一人として張飛の挑戦に応じようと言う者はいなかった。副將の夏侯傑など、張飛の気迫に驚いたあまり、ショック死してしまっしと言ふことである！これではさしもの曹操の大軍勢も、算を乱し、志気は砕け、とうてい作戦どころではない。兵士たちは一斉に身を翻して、バラバラに逃げ出す有り様だ。劉備の軍に後わずかという所まで追いつきながら、張飛のために軍勢をかき乱された曹操は、しばし追撃を中断する羽目になってしまっしたのである。劉備ははっと一息つくことができた。張飛は酒が入ると、とたんに粗暴になって、部下を棒や鞭で打ち据えることがあった。この様な行いのせいもあったのだろうか、関羽が呉の孫権に殺された後、張飛は亡き義兄を偲んで連日酒浸りとなり、酔いにまかせて部下を打ち据える日々を送った。ついに虐待に耐えきれなくなった配下の范疆と張達は、酔って眠りこけた張飛の寝首をかき、首級を持って呉に逃げ込んだのであった。関羽と張飛の両將を失って、劉備の漢室復興の悲願達成はますます遠のいてしまっし。

桃園の誓いより数十年の契りを経てきた兄弟を失った悲しみのために、我を忘れた劉備は、軍師たる孔明の諫めをも聞き入れず、本来曹操との戦いに使うべき兵を、全て呉に対して振り向けてしまっし。そして、その結果は・・・陸遜の策にかかり、再起不能に近いほどの惨敗を喫する事となったのである。劉備はこの後、義弟たちの後を追うようにして世を去った。「我ら生まれし日は異なれども、願わくは同年同月同日の死を・・・」

今日までも伝わる、この誓いの言葉のように・・・



連環掌 れんかんしょう

空中から瞬間的に敵に無数のパンチを叩き込む連環掌は敵の隙をついた効果的な必殺技である。



D⇒**G**⇒**1**

排山掌 はいざんしょう

掌に気を集めて敵に放出するのが排山掌。特にフルに気を集めた後の排山掌は大きな威力を発揮できる。



V⇒**G**⇒**1**

霸王拳 はおうけん

向う所敵なしの必殺技。近距離の敵には二重ものダメージを与える事ができる。



D⇒**G**⇒**2**

連環腿 れんかんたい

体重を武器にし両足に気を集めてから力を込めて敵を蹴り倒す連環腿。
連環掌と似たような技でもある。



D⇔**G**⇒**1**

抱圧壁 ほうあつつい

敵を担ぎ上げ、そのままジャンプしてから全身の力をこめて地面に叩きつける必殺技。敵と心中するように見えるが、実は二重のダメージを与える事ができるおそろしい技である。



D⇔**G**⇒**1**

爆裂拳 ばくれつけん

極究の必殺技。気を集めてから敵を捉え、爆発する火薬のように全身の気を敵に放出する。爆裂拳の攻撃を受けたらまず助からないであろう。



趙雲

総合的に評価すると、劉備の配下の五虎将の中では、やはり趙雲が第一であろう。長板橋の戦で劉備の幼児の命を救ったことで有名であるが、彼は勇敢だけでなく、策略にも優れた知勇兼備の名将である。幾度となく戦役に参加して、軍功を上げた事は数知れない。劉備が流亡生活をしていた頃に始まり、赤壁の戦い、荊州攻略、西川入り、南蛮討伐、諸葛孔明の中原北伐と、趙雲は劉備の陣営にあって、常に不可欠の中心人物で有り続けた。

曹操は袁紹を打ち破って、北方を統一した後、五十万の軍勢を自ら率いて劉備を打倒しようとした。この時劉備にはわずかに三千騎の兵馬があったのみである。曹操の大軍に対峙することなど、とうてい無理というものであった。ただ荊州全城の民百姓を連れ、ひたすらに逃れるしかなかった。そして長板坡において曹操軍に追いつかれた時、劉備はまだ乳児であった一子の阿斗と、妻の 氏を、乱軍の中で見失ってしまったのである。二人の行方はなかなか判らなかったが、趙雲は敵軍をただ一騎で切り抜けて、阿斗の身を救出して劉備の元にたどり着いた。敵軍を突破したとき、彼の全身は敵兵の返り血で紅に染まっていたという。五十万の大軍を前にして、その中を突き抜けること、あたかも無人の野を行くが如くに易々とやってのけたのである。この長板の戦における武勇伝は、趙雲の名を一生涯高める事になった。これより後、戦場において趙子龍の旗印を見かけた敵は、敢えてこれに挑もうとはしなかったと言うことである。

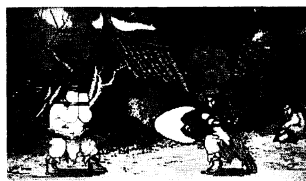
関羽、張飛、劉備が相次いで世を去った後も、趙雲はなお主力の将軍として孔明の南蛮征伐、および北伐に参加していた。惜しむべき事は、孔明の二度目の北伐の際、軍勢を整え終わり、いよいよ準備が整ったという時に、重病の為この世を去ってしまった事である。蜀の国にとっては補いきれない大損失であった。蜀の後主劉禪（成人した阿斗）は、趙雲の死を悼んで大將軍の称号を追い、彼の為に廟堂を建てて、四季折々にこれを祭った。



横掃千軍 おうそうせんぐん

長坂の英雄にふさわしく立ち回りに一寸のすきもない所が横掃千軍（千人の軍隊をなぎ払う）と言われる所以である。

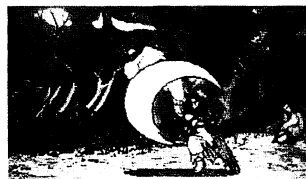




D⇒V⇒1

青虹斬 せいこうざん

青虹剣に気を集めて敵に斬りかかる。フルに気を集めればスピードも早くなる。



D⇒G⇒1

新月斬 しんげつざん

上方を防御する技。切れぬ物がない青虹剣を趙雲が持つばまさに鬼に金棒だ。



D⇒G⇒2

風巻残雲 ふうけんざんうん

空中を旋回し、青虹剣の気で敵を撃退する必殺技。



D⇔G⇒1

過肩墜 かけんつい

近距離にいる敵の力を使って投げ飛ばす技。



D⇔G⇒1

百裂掌 ひゃくれつしょう

気を集めてから敵の急所にパンチを浴びせ、動けなくしてから必殺技の新月斬を使う。



馬超

曹操は赤壁の敗戦後、都の西北の平定を欲した。後顧の憂いを断つべく、まずは西涼の馬騰を除こうと考えたのである。曹操は皇帝の詔勅を用いて、馬騰を迎えにでて、もてなす振りを装いながら、隠されていた部下に馬騰を殺害させたのである。

遠く西涼の地にあって、父の非業の死を知った馬超は、悲憤慷慨し、たちどころに兵を起し、一路長安に向けて進軍を開始した。頭にあるのは、ただ父のあだを討つことのみである。

復讐戦に意気に燃え立つ馬超に率いられた軍は將に破竹の勢い、長安、潼関を一気に攻め下し、洛陽を眼下に見下ろす所にまで達した。おりしも曹操は自らの精鋭部隊の準備が整わず、配下の武将に命じて馬超を向かい討たせた。だが、干禁、張郃といった名だたる武将はあつと言う間に打ち負かされ、馬超は勝ちに乗じて追撃して来た。曹操の本陣にまでも肉薄する。こうなつては曹操も逃げるしかなく、軍勢に紛れて逃げ延びた。この時馬超は、部下に曹操の特徴を伝えて追い求めさせた。曹操は赤い錦の袍を脱ぎ捨て、自慢の長い髪を切つて、自分だと判らぬようにしてようやく逃げることができた。赤壁で負けて以来、曹操にとっては最も狼狽した場面であった。

馬超は一世の驍将であつたが、惜しむらくは戦略や謀略といった事に深い洞察は無く、曹操を相手に幾つかの小さな勝利は得たものの、最終的には曹操得意の奸計に陥つて大敗し、殆ど身一つで敗走し、漢中の張魯を頼つて落ち延びていった。

劉備が蜀を攻略しようとした時、蜀の領主劉璋は張魯に救援を乞うた。これに応じた張魯は、馬超率いる援兵を差し向けたのである。これに対抗するに当たり、諸葛孔明は曹操流の老獪な作戦を用いている。「反馬の計」である。孔明の策にかかった馬超は張魯の信任を失つて孤立した。もはや漢中に身の置き所はない。かといって故郷の西涼は既に曹操の占領下である。行く宛のなくなった馬超は、劉備の軍団に降つた。

劉備の陣営に属するようになってからは、馬超は幾度もの城攻めや戦いの場で軍功を上げた。元々勇猛な武将として声望が西涼一帯にあった男であるから、孔明により西涼一帯の駐留軍を負かされるようになると、辺境に睨みをきかし、異民族の進入を防いだ。彼は生きている間異民族の進入を許さなかつたので、劉備は後顧の憂い無く、中原との戦に専念できたのである。かくして馬超もまた、劉備軍の欠くべからざる人材となつたのである。





V⇒G⇒2

回旋腿 かいせんたい

足に気を集めてから回旋して敵を蹴り飛ばす技。フルに気を集めるとさらに威力を増す。



V⇒D⇒2

翻身攪海 ほんしんかくかい

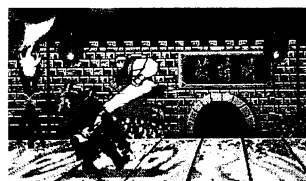
向う所敵なしの必殺技。地面に横たわって両足を回旋させ、相手を攻撃する。近距離の敵には二重のダメージを与える事ができる。



D⇒G⇒2

旋風脚 せんぷうきやく

ジャンプしてから身を翻し両足を風のように回旋させ、敵に蹴りを浴びせる。回旋腿と合わせて使えば、敵に大きなダメージを与える事ができる。



D⇔G⇒1

無影脚 むえいきやく

究極の必殺技。気を集めてから敵を捉え、空中でキックを六回すばやく浴びせ、相手を投げ飛ばす。汗顔（冷や汗もの）の必殺技。



D⇔G⇒1

過肩墜 かけんつい

近距離で使う投げ技。



黄忠

劉備は孫権と合同して赤壁に曹操を打ち負かした後、荊州の攻略に着手した。張飛、趙雲らが零陵、桂陽を占領した後、長沙郡に向かったのは関羽であった。出征の前夜、孔明は関羽に向かってこう言った。

「長沙の領主韓玄は取るに足らないが、配下にただ一人、大物の将がいます。黄忠という者で、大弓を引き、百歩離れて的えお外す事はないとか。彼の軍に立ち向かうには、千の兵でも少ないといえるでしょう。」

関羽が長沙城に迫ったとき、まず楊齡という者が、自分の力量もわきまえずに関羽に挑戦したが、あっと言う間に首を関羽に差し出す結果となった。そこで黄忠は城を討って出て、関羽に戦いを挑んだのである。

両人の戦いは初日は決着付かず、二日目、再び両者は鋒を交えた。戦ううちに黄忠の乗馬の足が折れ、黄忠は大地に投げ出された。このとき関羽は黄忠を斬ろうとすれば斬れたが、それを潔しとせず、黄忠が馬を代えるまで待ったのである。そして三日目、黄忠は得意の弓を持って出陣、関羽を射殺せる明確な機会があったが、前日関羽に受けた借りを返そうと思い至って、あえて関羽の甲を射たにとどめた。

両雄はお互いの武勇を惜しんだ。それが為の行いであったが、これを城から見ていた韓玄は、両者が意を通じているものと誤解し、黄忠が帰人するや、直ちに首をはねろと命を下したのである。幸い、日頃韓玄を良く思わなかった魏延が黄忠を助け、韓玄を一刀のもとに斬りすてると、城門を開いて関羽の軍勢を迎え入れた。以後、黄忠は劉備の陣営に加わることになる。

後に劉備が関羽、張飛の復讐戦を起こし、呉の孫権を討とうとしたとき、黄忠は既に七十五歳の老人であったが、年をものともせず参陣したのである。ただ惜しむらくは、敵の直中に飛び込んで勇戦した際、重包囲に陥り、その身に幾つもの傷を負って、関興、張包らに救出されて陣に戻るや、傷のために息を引き取ってしまったのである。

「將軍たる者、ひとたび陣中に身を置けば、その屍を馬の皮にくるんで帰ることこそ本望である。」

黄忠の死に様こそ、將に武人の本懐であった。





D⇒**G**⇒**1**

百歩穿楊 ひゃっばせんよう

弓に気を集めてから敵を射る技。フルに気を集めたときに
出る「萬箭穿心」はさらに威力がある。



V⇒**G**⇒**1**

黄龍探爪 こうりゅうたんそう

向かう所敵なしの必殺技。近づこうとする敵を退らせ、近
距離にいれば二度もの攻撃を与える事ができる。



V⇒**G**⇒**2**

双恨脚 そうえんきやく

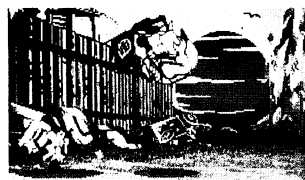
空中で身を翻し敵に向かって蹴りを浴びせる技。攻撃する
のに長い距離を必要とするため「百歩穿楊」と合わせて
使ったほうがより効果的。



D⇔**G**⇒**1**

連環手 れんかんしゅ

究極の必殺技。気を集めてから敵を捉え、パンチを六回浴
びせてから蹴りを入れる技。



D⇔**G**⇒**1**

過肩墜 かけんつい

趙雲、馬超と同様に近距離で使う投げ技。

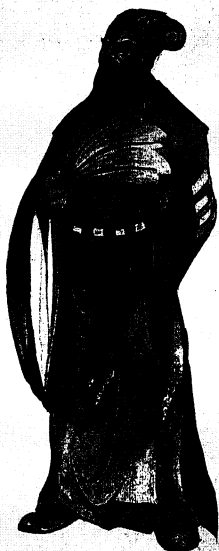
劉備

三国の中で、劉備の蜀ほど建国への道が険しかったものはない。いち早く黄巾賊征伐の義勇軍に参加し、幾つかの戦功を立てた彼は、戦後に田舎の子役人職を受けた。孫権や曹操が貴族の家庭に生を受けて、権門の勢力に初めから依って立つ事が出来たのとはかなり様相が異なる。劉備は四十歳になる頃まで各地を転々とし、自己の根拠地を得ず、他人のもとに身を寄せていた。自分の勢力圏を持たず、他者のもとをさまよい歩いていたこの男が、いずれ曹操や孫権と天下を三つに割って争う事になるなど、一体誰が想像できたであろうか？

成功する人物というものには一定の本質的な条件がある。劉備の長所は、人柄が良くて人望を得た事に尽きる。諸葛孔明に対して「三顧の礼」を尽くした事から見ても、劉備は才能有る者を見る目を持っていた。たとえば諸葛孔明は、才能を噂されてはいたものの、未だそれを証明する業績は何もない状態であったが、そんな孔明の所へ自ら教えを乞いに出かけて行ったのである。これは、容易な事ではない。比べるに曹操は稱衡、楊修といった天下の才人を容れることが出来ず、直接或は間接的に彼らをを除いてしまった。これを見ると劉備と曹操の胸襟の広さは天地ほどにも違って見える。

この人柄のため、劉備のもとには常にあまたの人材が集まって来た。一群の才能有る人物たちを得て、荊州を占領し、西川に入り、天下の一角を押さえて立つことが出来るまでになったのである。中国の大半が曹操の勢力の脅威を受けて支配下にあったときに、蜀の地に建国して曹操に頑強に対抗したのだ。大器晩成などと言われるが、これはそう容易なことではない。

劉備は後に関羽の復讐戦で呉の陸孫と戦った時に、地形や敵情の判断を誤って大敗し、鬱々としたまま白帝城にて世を去った。志半ばにして中道に崩したとはいえ、彼のこうした生き方を見ると、劉備は乱世において類希なるすがすがしい人物であったといえるのだ！



諸葛亮

諸葛亮、字は孔明。彼は三国の時代で最も傑出した軍事家であり、政治家であった。彼が歴史の表に顔を出すまでは、中国はほぼ曹操により制覇される手前まで来ていた。曹操にとって、天下はもはや易々と、**中の物を取るように手にいれるはずだったのだ。それが、彼諸葛亮の出現によって、あれよあれよという間に事態は急転し、三国鼎立の微妙な情勢へと変化したのである。

劉備は、劉表の元で庇護を受けていた頃、徐庶の紹介で諸葛亮の賢明を耳にした。そこで教えを求めんと、三度にわたり彼の住処を訪れたのだが、一度目と二度目は留守のため会うことが出来ずに終わり、三度目にしてようやく諸葛亮本人に会うことが出来たのである。この時の二人の会談の中で、諸葛亮の提案したのがかの有名な「天下三分の計」である。劉備にとって必要なことは、まず荊州及び西川の両地を得て、自分の根拠地を確保することであると説いたのである。後に事実が証明するように、彼のこの策は完全に正確極まるものであった。劉備は彼に指摘されたこの両地を得た後、蜀の国を建国し、もって曹操に対抗する事が出来るようになったのである。まだ田舎の草庵に居るという状態で、天下の状況を推察してしまう諸葛亮の慧眼さ、そして的確な見解を述べる才覚。将に彼こそ三国時代第一の人材であった。

劉備に仕えるようになって、さっそく諸葛亮は一つの大難題を抱える事になる。

江南を虎視眈々と狙う曹操に対抗すべく、彼は呉の軍師たる周瑜と手を結ぶ戦略を立てた。赤壁において彼は計略を用いて曹操の八十万の大軍を猛火の中に焼き滅ぼし、更に戦術的にも電撃的な素早さを發揮して、勝ちに乗じて追撃し、荊州、益州の両州を瞬く間に占領したのであった。

蜀の建国後は、彼は軍事的才能のみならず、政治的才能をも發揮して、厳密な法制度によって国を治め、政治を清明にし、民衆が安んじて生活できるようにした。劉備が呉に敗北し、白帝城で崩じた後は、魏に対抗するという重責は彼が一身に背負うことになる。国内を安定させた後、彼は自ら兵を率いて雲南の不毛の地に深く入り、有名な「七擒七縱」を行って南蛮を平定した。しかる後に兵を返して北伐を実行、祁山に出兵して関中を奪取せんとした。惜しいかな、天は人の願いを聞き入れなかった。諸葛亮の北伐計画は度々繰り返され、六度もの祁山進出で幾つかの小さな勝利は得たものの、結局寸土たりとも領土を得る事はかなわず、曹魏の根本を揺るがす事は出来なかったのである。度重なる出征の疲れの為、彼は遂に五丈原で病に倒れた。ひたすら職務に奮励した結果の死であった。

そのわずか三十年ほどの仕官の期間中に、彼の成した業績は燦然と輝いている。もしも彼がいなかったなら、三国の時代など存在せず、歴史は全く異なった展開になっていった事だろう。漢室の中興という目的は果たせなかったとはいえ、諸葛亮の天地に通ずる才能は、後世の人々に限り無く慕われ、かつ敬われている。





曹操

この詩は、赤壁の戦いの前夜、曹操が詠んだものである。

民間の小説である「三国志演義」は、劉備の蜀を中心に記述している為、曹操は至る所で不当にあくどく描かれている。また、これがため一般の人々の曹操に対する印象は、偏見に満ちたものになっている。「曹操」といえば、悪役の代名詞というくらいのものである。

だが、事実は、曹操は詩を詠む風流人だったし、なおかつ一流の用兵家でもあった。諸葛孔明は彼をこう評している。「曹操の用兵は、孫子、呉起を彷彿とさせる。」と。曹操は、古代の孫子、呉起流の正当な兵法の類希なる使い手だったのだ。もし、赤壁において諸葛孔明に一步譲り、大敗するといった事がなかったなら、彼は早々に天下を統一出来ていた事だったろう。

さて、ここで三国志の主役たちをちょっと簡単に比較してみよう。孫権は父や兄の偉業を受け継いだに過ぎないといった点がある。劉備は、僥幸と言える程の幸運に救われたただけだ、とも言えそう。ひとり曹操のみが、刀と槍を振るって天下を討ち平らげて、他の二者のなし得なかった野望を達成していったのだ。

曹操は若い頃、人相見で有名な許子将の元を訪れたことがある。そのとき許子将は彼の相をこう評した。「お主は治世の能臣、乱世の奸雄じゃ。」と。

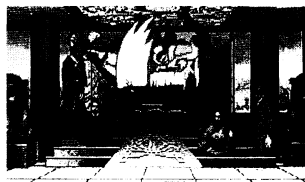
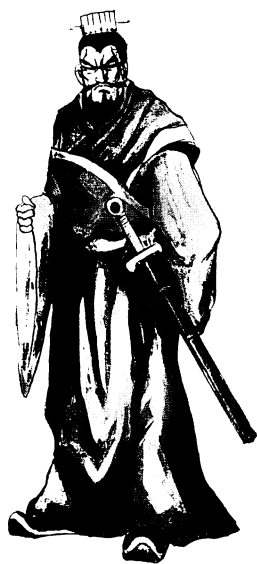
董卓を打倒するまでは、曹操は性根がまっすぐで積極的な忠臣としての一面を見せている。黄巾賊の平定に参加して功を上げ、横暴な董卓の刺殺を企て、天下の諸侯に勤王の軍を起こして董卓を討つことを呼びかけたのだ。こんな彼がどうして後に国賊扱いを受けるようになっていったか。

董卓が打倒された後、漢の王室は無力化して国家を抑制する能力を失い、各地に散らばる軍閥、諸侯らが中央の政府の命令に従わず、互いに利権を争い、互いに相手を征服しようとする様になっていった。乱世にあっては、人間は誰しも時代に流される。曹操とても歴史の渦の中に巻き込まれずにはいられなかった。虎と狼が互いを食いつくさんと狙いあう世にあって、曹操は自己の力によって、袁紹、呂布、袁術といった野心の塊のようなライバルを討ち滅ぼして、中国の北方を統一したのである。この頃になると、曹操の心は以前と異なった様相を呈してくる。

「もはや、漢の王室に昔日の力を回復させてやる事など夢物語だ。天下は能力の優れた者によって取って代わられるべきなのだ。それが上天の与える決定的な宿命なのだ！」

そして時代は新たな方向へと流れ始める。曹操は驕り高ぶり、専横が目立ち始め、君臣の分をわき

まえない僣越な振る舞いをするようになって、「乱世の奸雄」らしい性質を露呈させて行く。しかし欲をかきすぎると必ず潰くもので、劉備、孫権を一撃の下に葬り去って大いなる野望を達しようとした曹操は、赤壁に大敗し、その意気をくじかれてしまう。短い時間では再び天下を平定して四海の内を手に入れる夢をかなえる事は成すべくもなくなり、三国鼎立の局面が形成されたのである。



白鶴飛脚 はっかくひきやく

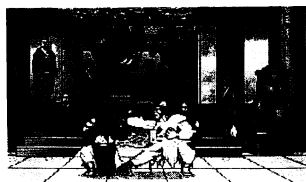
前方の空に跳んで身を翻してから両足で蹴り飛ばす。双振脚と似ているが殺傷力が大きいだけに隙が多いリスクもある。



V⇒G⇒1

金蟬脱殻 きんぜんだっかく

金蟬脱殻とは、蟬の脱皮のようにするりと敵の攻撃から逃れると同時に相手に攻撃を仕掛ける事ができる技。



D⇒G⇒1

双絶手 そうぜつしゅ

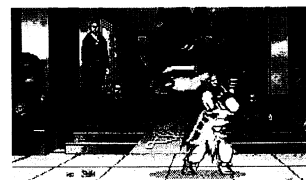
三回立て続けて攻撃できる技。気をつけないと術中にはまるため曹操を見くびらないほうがよからう。



V⇒G⇒2

双振脚 そうしんきやく

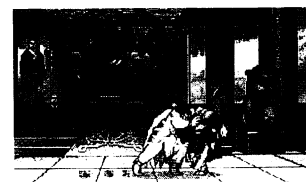
ジャンプして両足で蹴り飛ばす敵を近づかせないための技。



D⇔G⇒1

過肩墜 かけんつい

近距離で使う投げ技。



D⇔G⇒1

鉄頭功 てっとうこう

自分の頭で敵の頭をぶつけるのが鉄頭功。



呂布

呂布の武芸の強い事と言えば、驍勇無双で、張飛などを除いて誰にも後れをとったことがないという位のものである。呂布はただ一人で関羽、張飛の二人を相手に戦って後れを取らず、更に劉備も戦いに加わって、三人がかりで責められてるや、ようやく支えきれなくなって逃げ去ったという事があったが、この場合、誰が勝者で誰が敗者であると言えるのだろうか。もし一対一の戦いであったなら、と考えてみれば、やはり呂布に勝る者は存在しないだろう。

董卓は千里の馬の赤兔を用いて呂布を買収した。篡奪を企む董卓が、驍勇無双の呂布を得たのだ。董卓の気炎はいや増すばかりである。反董卓陣営の王允は董卓を除くべく謀っていたが、まずは呂布を引き離すべく、美女貂蟬を使つての「連選の計」で両者を仲違いさせようとした。まず貂蟬を呂布に引き合わせておいて、後で董卓に貂蟬を差し出したのである。呂布は董卓に貂蟬を取り上げられたと感じた。連選の計は功を奏し、呂布は董卓と反目し合う様になった。呂布は機会をうかがって、董卓が外出したおりにこれを殺害した。短い間に、呂布は気の向くままに何度も反逆を繰り返したのである。

彼は友人を持てるタイプではなかった、信用のおけない、狼の様な心の男だった。董卓が殺された後、呂布はまるで宿なしの犬の様に流亡の生活をし、誰を頼っていても、そこに長く留まることはなかった。四方をさすらったあげく、最後には劉備の元に転がり込んだが、劉備が出征中の、空同然になった留守の城を占領して居座ってしまったのである。恩を仇で返すこの様な行為を、誰が我慢できようか？

最後には曹操に破れて、将に処刑されようというときに、劉備の温情にすがろうと試みたが、さすがの情に篤い劉備も、助けようとはしなかったのである。結局その身の武芸で他人を驚かせはしたが、勇猛だけが取り柄であった呂布は、曹操に破れて、自分の城の門前でくびり殺されたのであった。



V ⇒ G ⇒ 1

旋風拳 せんぷうけん

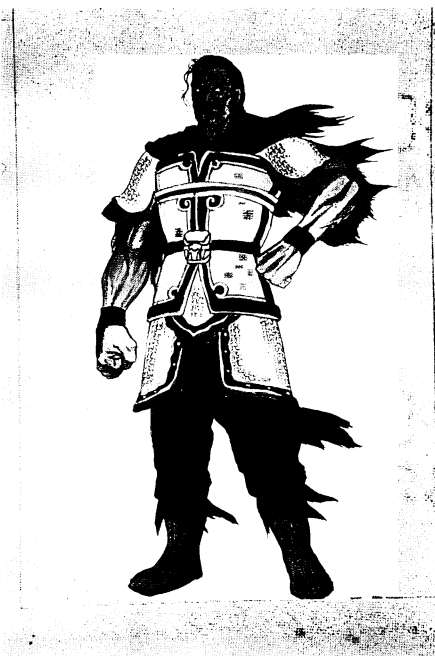
呂布の向う所敵なしの必殺技。体をハイスピードに回旋させ、掌に気を集めてから無数のパンチを浴びせる。近距離であれば二重のダメージを与える事ができる。



D ⇔ G ⇒ 1

猛龍過江 もうりゅうかこう

究極の必殺技。気をフルに集めてから敵を捉え、手、足を使って無数のパンチや蹴りを浴びせる。一旦捉えられたら、生きては戻れないであろう。





D⇒V⇒1

龍斬拳 りゅうざんけん

呂布が遠距離で使う牽制技。フルに気を集めればさらにパワーアップする。

飛龍拳、火炎拳と合わせて使えば敵を徹底的に叩きのめす事ができる。



V⇒R⇒2

飛龍拳 ひりゅうけん

軽技の得意な呂布だけあって敵の頭上に跳んでから必殺技の飛龍拳を使う。敵の度肝を抜く技である。



D⇒G⇒1

火炎拳 かえんけん

両手に気を集め、突進しながら全力で敵に放出する必殺技。攻撃できる距離が長い。



D⇔G⇒1

後壁 こうつい

夏侯淵や惇と同様の近距離で使う技。



V⇒1

降龍把 こうりゅうは

空中で敵を捉えて地面に引き下ろす必殺技。力を必要とする技。



典韋

曹操はよく人を用いた。数多くの武将が彼の元に集まったが、その中でも最も優れていた者が典韋である。典韋は曹操の親衛隊の隊長を務め、曹操も彼に絶大なる信頼を寄せていた。後に彼は曹操を守って最期を遂げるが、典韋を失ったことは曹操一生の痛恨事であった。

ある時、曹操の軍は呂布の軍勢の攻勢を支えきれず、四方を囲まれてしまった。曹操は大声で助けを求め、典韋に助けられて囲みを切り抜けた。なおも呂布の大軍が迫って来る。典韋は何十本もの短戟を携え、部下の兵士に命じた。「敵が十歩まで来たら俺に知らせろ。」そして彼は木の後ろに回った。「十歩まで来ました!」兵士が伝える。典韋がまた言う。「五歩まで来たら知らせろ。」「ただ今、五歩です!」と兵士が大声で伝える。そこで典韋は木陰に隠れたまま短戟を敵めがけてヒョウと投げつける。短戟が一閃し、敵の一人がドゥッ、と倒れる。短戟が一つ投げられる度に一人が倒れる。一つとしての的を外さない。次々に仲間が倒され、追手の兵たちはすっかりひるみ、一斉に逃げ散った。作戦時における典韋の勇敢さはかくも見事なものであった。

典韋の死は、曹操の過ちによるものであった。張繡が曹操に降伏したとき、曹操は張繡の叔母にあたる女を私通したのである。ある日の夜、張繡は兵を集めて曹操の寝所を襲った。ぐっすり夢の中にいた典韋であったが、外の兵馬の音を耳にするや、がばりを身を起こし、常に肌身離さずにいた一対の戟と、一振りの刀をひつつかみ、鎧も甲も身につけぬまま、曹操を守りに駆けつけたのであった。

典韋は、敵兵を二十数人も切り倒した。敵兵はとても典韋に近づけず、遠巻きにして矢を雨の如く浴びせかけた。典韋の全身に数十本の矢が突き立った!しかし典韋は門の出口を守って一步も動かず、曹操の所に敵兵を寄せ付けなかった。やがてさしもの勇士も、おびただしく流れ出る血の海の中、一声大きく敵を一喝してこと切れた。その気迫は死してなおさまじく、目の当たりに見た驍勇ぶりに肝を潰した敵兵は、誰一人としてこの勇士の屍に近づけなかった。曹操は典韋のおかげで追手に追いつかれず、逃げ切ることが出来たのであった。

曹操は自分が美女にうつつを抜かしたことが元で典韋を死なせてしまったと、大いに悔いたという。





D⇒**G**⇒**1**

回転刺 かいてんし

前方にジャンプしてから両手に持っている矛を敵に刺す必殺技。典韋の持つ矛は殺傷力が大きいので気をつけたほうがよい。



D⇒**G**⇒**2**

大鵬展翅 たいほうてんし

敵の攻撃から逃れると同時に相手を攻撃できる必殺技。大鵬（おおとり）が翼を広げたように広い範囲を攻撃できるため気をつけたほうがよい。



V⇒**G**⇒**2**

旋矛斬 せんむざん

両手に持つ矛を動かしながら後方に身を翻すおそろしい技。矛が残した残像がこの旋矛斬の奥義。



D⇔**G**⇒**1**

双刹戟 そうせつげき

力を込めて六回敵を刺してから後方に投げつける。典韋の持つ矛は威力が凄まじいため対戦する時は気をつけたほうがよい。



D⇔**G**⇒**1**

刺投墜 しとうつい

近距離で使う必殺技。両手の矛で敵を刺し、後方に投げつける。



徐晃

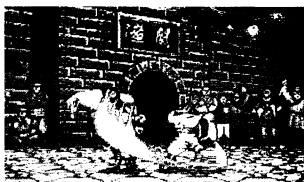
徐晃が曹操の陣営に加わったいきさつは以下の如くである。

董卓が刺殺されてから後、元董卓の配下だった者たちはてんでバラバラになってしまい、幾つかの軍閥集団に分かれて利権を争い、お互いに相手を征服しようと、果てどもなく戦い続け、民衆は塗炭の苦しみを味わわされたのである。李確、郭汜の両名はそれらのうちの一例である。この両名の軍閥は、片方が皇帝を擁せばもう一方は公卿、大臣たちの身柄を確保するという具合に、互いに譲らず、長安城外で天地を暗くするほどの争いを繰り広げていた。献帝はこの状況に愛想を尽かし、皇帝擁護派の楊奉、董承といった者たちの手引きで長安を逃げ出したのである。この時、楊奉軍の大將として仕えていたのが、徐晃であった。献帝を救出して、洛陽へ向かうまではうまく事が運んだが、李・郭の両名も皇帝を奪い返さんと、洛陽城外

まで追いかけて来た。あわやと言うところであったが、おりしも曹操の軍勢が皇帝を救うべく洛陽近くまで駆けつけており、曹操軍によって李・郭らの軍は蹴散らされたのである。献帝はたいそう喜んで、曹操を大臣の位に取り立てたのである。

さて、一番手柄が曹操のもつとされた事は、楊奉の不満をつのらせた。そのため楊奉は、曹操が許昌に移動する際に、徐晃を派遣して攻撃させたのである。これに対して曹操は、許昌にこれを迎え討たせた。両雄の戦いはすさまじく、互角のままに引き分けとなった。曹操はそれを見て、徐晃に一目置くようになった。かねてから天下の英雄を自分の配下に加えたいとの野望を持っていた曹操は、部下のひとり満龍を使者として送り、徐晃を説得させた。満龍の熱心な説得が功を奏して、徐晃は曹操の軍門に降ったのである。徐晃を引き抜かれた為、楊奉の軍は要を失ってろくも崩壊した。

その後、曹操は全土を平らげ、民心を安定させ、皇帝を洛陽から許昌に招いた。皇帝を擁し、「天下の威によって諸侯に号令する」事で中国全土への政治的権力を確保していったのである。もし、徐晃が曹操の陣営に参加していなかったとしたら、楊奉は今しばらくは曹操相手に戦っていられた事だろうし、そうであれば曹操は皇帝に遷都を強要する事など出来ず、その後の「位人臣を極む」といった状況には到底成り得なかった事だろう。こうしてみても、徐晃は曹操にとって無くては成らぬ將軍のひとりであったのだ。ずっと後になって、諸葛孔明が中原に兵を進めた際の戦いで、徐晃は孟達の放った一矢を額に受けて落命した。享年五十九歳であった。



D → G → 1

旋風斬 センぷうざん

前方に身を翻しジャンプして切りつけるのが旋風斬。スピードの早い所がポイントとなる。ただ敵にダメージを与えられなかった場合、反撃されやすいため「裂地斬」と合わせて使ったほうが安心できる。





G⇒**V**⇒**1**

裂地斬 れっちざん

斧に気を集めてから地面に切り下ろす必殺技。フルに気を集めればスピードが早くなる。



V⇒**2**

頂上圧 ちょうじょうあつ

尻を武器に敵を押えつける技。彼に技を掛けられたら目が眩んでしまう。



V⇒**G**⇒**1**

旋斧斬 せんきざん

上方を防御する技。斧を切り下ろすのに使う力が多いため、攻撃後は隙だらけになる。ただうまく使えば相手を倒すのも困難ではない。



D⇔**G**⇒**1**

仰重挫 ぎょうじゅうざ

敵を担ぎ上げてから、後方に投げ飛ばす残酷な技。



D⇔**G**⇒**1**

疾刺斧 しっしき

究極の必殺技。気を集めてから敵を捉え、見境なく刺したり斬りつけたりする凄まじい技。捉えられたら無事ではないだろう。



許褚

曹操が黄巾賊の征伐に携わっていた頃のことである。連戦先勝して、逃げて行く百名ほどの黄巾賊を追撃していたときであった。百姓と思われるひとりの巨漢が、槍をしょいで黄巾賊に襲いかかり、次々に賊を穴に追い落としに出くわした。そばにいた典章が、「そこで黄巾賊を倒している大男、いったいお前は何奴だ?」と、問いかけたが、その男は不遜な態度で、返事もせず、典章の追っていた賊をさっさと片づけてしまった。典章の怒るまい事か! かつとなつてその大男めがけて突きかかる。たちまち両者のすさまじい戦いとなった。ところが二人の腕はまったくの互角で、いつ勝負がつくやら見当もつかない。これを見た曹操は一計を案じ、この巨漢を捕らえさせた。

ふんじばられ、曹操の前に引き出された大男、名を問われて初めて大声で名乗ったのである。「俺は許褚という者だ。」と。彼はこの数ヵ月、周辺の村々の若者を率いて黄巾賊と戦っていたのだ。黄巾賊が曹操軍に打ち破られたのを幸い、逃げていく奴等の残党狩りをやっていたのであった。曹操は、許褚の勇猛さを気に入って配下に加え、都尉に取り立てた。

曹操の配下に加わってから、許褚は多大なる軍功を立て続けた。

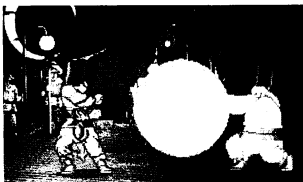
馬超が父の仇を討とうと、西涼兵を引き連れて洛陽郊外へ攻め寄せてきたとき、曹操はあわや殺されかけて、袍を捨て、髭を切って逃げまどった。そんな戦いの中で、ある時曹操は天候が悪くなるのを知って、土壘と凍った土砂とで出来た城を一晚で築き、馬超に相対した。翌朝、わずか一晚で城が出来ているのを怪しんだ馬超は、近くまで敵情視察にやって来た。少し離れて曹操の軍勢を見やれば、曹操の側に一人、厳ついのが控えているのが見えるではないか。目を凝らし、如何にもごつい面構えのその巨漢が、かの「虎痴」許褚で有ると知った馬超は、以後は軽々しく動くのを控えたとの事である。

しばらくして、許褚は曹操の止めるのも聞かず、馬超に挑戦状を叩きつけた。一騎打ちの申し入れである。むろん馬超も堂々と受けて立った。両軍の兵士を見守る中、両雄は激しく死闘を繰り広げた。互角の勝負、いつ決着が付くとも知れない。

曹操は遠方から観戦していたが、両者が一步も譲らずに戦い続ける様を見ると、このままでは「両虎相打ち」状態となつて、許褚が傷つくのではと恐れた。そこで合図を出して、許褚を引き上げさせる。許褚が引き上げかけると。馬超はこそこそとばかりに攻めかけた。たちまち。両軍相乱れての混戦となる。乱戦のさなか、許褚は甲を失い、矢傷も負ったが、幸い味方の兵に守られて城内に逃げ込む事が出来た。

典章の死後も、許褚は引き続き曹操の衛兵隊長として勤めを果たした。「虎痴」の異名をとった彼は、曹操の身辺の警護のみか、あまたの戦場での軍功も重ねていった。彼の武勇のおかげで、曹操は幾度危急を救われたか知れない。





D⇒V⇒1

虎撃波 こげきは

八分の気を使った虎撃波は攻撃できる距離こそ短いが範囲は広い。
その上フルに気を集めればさらにパワーアップして何メートル先まで攻撃できる。対戦する場合、用心すべきだ。



D⇒G⇒1

猛虎衝 もうこしょう

虎のように真っすぐ前に向けて突っ込んで来る恐怖の必殺技。



V⇒D⇒1

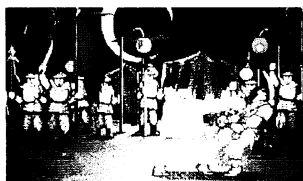
餓虎撲羊 がこぼくよう

相手の隙をつき、対処できる前に体ごと上から覆いかぶさってしまう。

V⇒1

飛虎撲 ひこぼく

「餓虎撲羊」同様、体重を使って覆いかぶすのだが、殺傷力は若干弱くなる。



D⇔G⇒1

虎痴拳 こちけん

敵を捉えて六回重いパンチを浴びせてから虎撃波で気を放出する。



D⇔G⇒1

撃地墜 げきちつい

敵を捕まえて地面に叩きつける近距離で使う投げ技。

夏侯惇・夏侯淵

曹操は董卓暗殺に失敗した後、各地を転々と逃げ回りつつ、新たに兵を集め、軍馬を買って、再起を図る準備をしていた。そのころに夏侯惇・夏侯淵の兄弟は曹操の元にはせ参じたのである。

彼らは曹操とは宗族に当たる。曹操の父親の姓は元々「夏侯」なのである。曹操の祖父に当たる曹騰は、宦官であった。そこで養子を取ったのだが、それが曹操の父親と言うわけだ。養子となってから、「曹」姓を引き継いだのである。まあ、元を正せば夏侯の兄弟は曹操と同族と言うことである。

曹操が呂布と戦ったとき、夏侯惇は兵を率いて出戦したが、行軍中にばったりと呂布軍の先鋒、高順の一隊に出くわした。夏侯惇はまっしぐらに高順めがけて突進する。高順では到底彼の敵ではない。たちまち支えきれなくなって、ほうほうの体で逃げにかかった。夏侯惇はそれに乗じて追撃をかける。高順不利と見た呂布軍は、囲みを破って高順を逃がそうと、雨あられと矢を放った。そのうちの一本が、ぶつとりと夏侯惇の左目を射抜いたのである。大声を上げる夏侯惇。刺さった矢をぐいと引き抜く。目玉がずばっと抜けて出て、辺りに血がさっと飛び散った。

夏侯惇は騒がず、「父の精、母の血ぞ、棄ててなろうか!」と言うなり、自分の目玉をその場でバクリと食ってしまった。これ以降、彼は「独眼竜」と呼ばれるようになるが、隻眼となってからも、彼の作戦指揮能力が衰えたと言うような事はなかった。

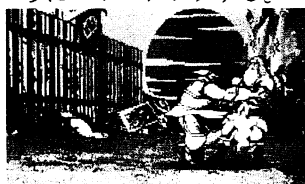
夏侯惇・夏侯淵の両将は、曹操軍にとって欠くべからざる驍将であった、大小の戦に常に出戦し、実戦では兩人とも馬を駆けめぐるせて武勇を振るった。そして、兩人ともに忠義の人であった。だが、惜しむらくは兩人とも勇に偏りすぎて、知謀に欠ける面があった事だ。夏侯淵は蜀との戦で、敵の計略に陥って戦死を遂げている。曹操は彼らが知勇兼備でない事をやや惜しんだが、曹操自身が並はずれた知略の持ち主であったのだから、互いに補って余りあるものがあったと言うものである。



D → V → 1

破地拳 はちけん

夏侯惇の牽制技。気を地中に叩き込んで敵に向わせ放出させる。フルに気を集めれば、さらにパワーアップする。

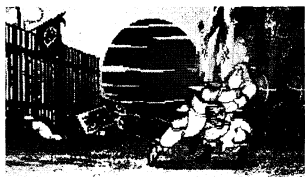


D → G → 1

双衝拳 そうしょうけん

体を軸にし、両手を刀に見立て、前方に回旋する必殺技。敵の攻撃をかわずと同時に前方に向けて攻撃できるメリットがある。弱点は足。





D⇒G⇒2

撃頭衝 げきとうしょう

頭を武器にし敵にぶつける必殺技。



V⇒G⇒2

回旋脚刀 かいせんきゃくとう

上方を防御する技。殺傷力は大きいが破綻の危険も大きく、なるべく使用を避けたほうがよからう。



D⇔G⇒1

後墜 こうつい

後ろから敵に抱きつき後方に投げつける近距離で使う投げ技。



D⇔G⇒1

連環拳 れんかんけん

夏侯惇の究極の必殺技。フルに気を集めてから敵を捉え、六回連環拳を連発すれば無事ではすまないであろう。



D⇒V⇒1

剛裂拳 ごうれつけん

夏侯淵の牽制技。敵が攻めて来たら撃頭衝や双衝拳と合わせて使うことができる。フルに気を集めればスピードアップできる。



D⇔G⇒1

連環腿 れんかんたい

夏侯淵の究極の必殺技。フルに気を集めてから敵を捉え、立て続けに六回連環腿で相手にダメージを与え、目が眩んでしまった所で後方に投げつける技。

USER SUPPORT

商品同封のユーザーサポート登録ハガキに必要事項をご記入の上、弊社ユーザーサポート係までご返送ください。

この取扱説明書は、乱丁、落丁を除き再発行は致しません。操作方法がわからなかったときは、もう一度マニュアルを良くお読み下さい。それでも正常に動作しない場合は、下記の事項についてご確認の上、お電話でお願いします。

また、万一ディスクを破損してしまった場合、新しい物と交換させていただきます。なお、交換手数料を1500円とさせていただきます。

1. 商品名
2. ご使用の機種
3. 環境（メモリなど）
4. 不良状況

サポート時間は、午前10時～午後5時までとなっております。誠に勝手ではありますが、本製品のサポートは、ユーザーサポート登録ハガキをご返送いただいたお客様に限らせていただきます。

注：ゲーム攻略法についてはユーザーサポートでは、お答えできません。

〒163-07 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル15階

Tel. 03(3343)8911 Fax. 03(3343)8915

ユーザーサポート Tel. 03(3343)8900

禁複製/無断転載

© 1993/1995 PANDA ENTERTAINMENT TECHNOLOGY INC. Japanese Version Programmed GREAT CO.Ltd.



イマジニア株式会社

〒163-07 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル
Imaginer 代表●03(3343)8911 ●ユーザーサポート03(3343)8900